特定放射性廃棄物の最終処分の取組見直しに向けた国民からの御意見
(平成26年3月14日～平成26年4月29日)

※個人情報等を除き原文を掲載しております。

○年齢：40代

○性別：女性

○職業：なし

○都道府県：愛知県

○御意見及びその理由

本日4月29日、火山の巨大噴火が原発などに及ぼすリスクについて議論するため、日本火山学会は「原子力問題対応委員会」を設置し、委員会が開催されたと伝えられました。原発が存在する期間内に巨大噴火が起こらないとは科学的に保証ができず、また、噴火の予知も難しいということで、研究者として議論を尽くしてくださるものと心強く思いました。

地層処分に関しても、操業中に巨大噴火が起きないとは保証できず、また、回収可能性を担保することとなれば、長期間、埋め戻さないこともあり得るのに、地層処分技術WGで取り上げているNUMOの「地質環境の長期安定性に関する確認事項」で、「回避が必要となる天然現象 閉じ込め機能に対する影響要因と関連事象」として影響要因を挙げていますが、既に「閉じ込め機能に対する」との設定であって操業中に火砕流の直撃を受ける等のことは想定しないのか、火砕流は回避の必要性がないとして、従来火山から15kmを回避すればよいとの考え方を維持しているようですが、このような考え方では問題があるため、日本火山学会が上記の委員会を設置し検討を始めたのではないのでしょうか。

地層処分技術WGでは、委員から巨大カルデラ噴火エリアは最初から除外すべきとの意見も出ていましたが採用せず、従前と変わらず火山から15kmしか回避しないとするのであれば、国民の不信感は募るばかりです。